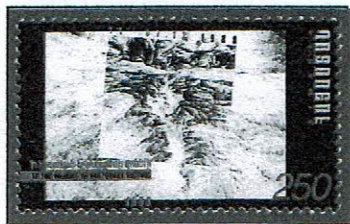


災害に向き合って その5
世界の大地震（ヨーロッパ）

蜂谷 紀之

アルメニア地震（スピタク地震） アルメニアは、トルコの東に隣接する西アジアに位置する国ですが、旧ソ連邦に属していたため、ヨーロッパの一つとして取り上げました。ソ連から独立したのは1991年です。アルメニア地震が起きたのは1988年12月7日11時過ぎで、北部コリ地方の都市スピタクを震央とするマグニチュード7.2の規模でした、この地震により約2万5000人が死亡し、少なくとも1万9000人が負傷したのをはじめ、震央に近い地域では高層建築物がほとんど倒壊し、40万人以上が家を失うなど大きな被害をもたらしました。右上の切手は地震から1周年目に発行された切手で、地震による巨大な地割れを描いています。



アルメニア 1988.9.26

マケドニア・スコピエ地震 1963年7月26日、ユーゴスラビア連邦(当時)のマケドニア共和国の首都スコピエでM6.1の地震が発生しました。1000人以上が犠牲になり、市内の8割近い家屋が倒壊しました。この震災の後に、国連主導でスコピエ中心部の都市計画のコンペが行われ、故丹下健三(1913-2005)氏のプランが入賞したことで、日本とのかかわりも深い地震です。丹下氏の案は、高架プラットフォームや自動車と歩行者を分離した近代的なもので、スコピエ中央駅などにその特徴が残されています。下左の2種は、震災1周年目にユーゴスラビアから発行された切手で、一枚には地質の隆起と復興工事、もう一枚には復興工事と支援を受けた国連旗などが描かれます。下右は1991年にユーゴスラビアから独立したマケドニア共和国から、震災31周年目にあたる1994年に発行された切手で、倒壊した建物と止まった時計が描かれています。



ユーゴスラビア 1964.7.26



マケドニア 1994.6.1

ギリシア・イオニア諸島の地震 イオニア諸島は、ギリシアの西のイオニア海上にある、主要7島からなる島々です。1953年8月12日、この島々を中心にマグニチュード6.8の地震が襲いました。この地震では445～800人が命を落としています。これは過去100年間のギリシアの地震被害としては最大でした。右の切手2種は、ザンテ島にあった教会の傾いた塔と、ケファロニア島アルゴスの破壊された海辺ならびに同島(大きな方)とイタキ島の地図を描いています。



ギリシア 1953



イタリア 2008.11.2

イタリア・メッシーナ地震 1908年12月28日、イタリア南部のメッシーナ海峡でマグニチュード7.1の地震が発生しました。津波による被害もあり、近代ヨーロッパ史上最悪の8万人以上の犠牲者を出しました。地震の発生に際し、当時地中海で活動していた英国、フランスやロシアなどの海軍が、国際救援活動を行ないました。左は地震から100周年の2008年にイタリアが発行した切手です。

ポルトガル・リスボン大地震 18世紀中頃の1755年、ポルトガル沖で大地震が発生しました。マグニチュードは8.5～9.0と推定され、強い揺れが北はフィンランドから南は北アフリカの広い地域に及びました。また、大きな津波はあまりない大西洋ですが、この地震では広い範囲を大津波が襲い、リスボン市内には15メートルの津波が押し寄せました。死亡者はリスボンだけでも9万人とも言われます。この地震は、当時の政治・思想・社会などにも大きな影響を及ぼしました。右の2枚の切手は、震災から250周年の2005年にポルトガルが発行した切手で、破壊され火災が発生した市街や被災した人々を描いた地震発生当時の絵画などを題材にしています。



ポルトガル 2005.11.25